仁方小だより

第１１号
令和８年１０月２日
呉市立仁方小学校

いじめ撲滅集会



９月２９日（火）の朝会の時間に、いじめ撲滅集会を行いました。保護者を代表してPTA副会長の江口さんに、地域を代表して主任児童委員の長島さんに参加していただきました。お二人からは、いじめをなくすためにどうしたらよいか等、子どもたちに分かりやすくお話をしていただきました。江口さんが作ってくださった掲示物は、児童の集中下足に掲示しています。また、各委員会の委員長から、いじめ撲滅キャンペーン中に行う取組の発表がありました。今年度は、全部の委員会が同時に取り組むのではなく、長期間、いじめについてみんなが考えられるように、時期をずらしながら取組を行う予定です。仁方小学校が温かく思いやりいっぱいの学校であるよう願っています。



MOA美術館呉児童作品展 呉市教育会学校奨励賞受賞！

毎年、夏休みの応募作品の中に、MOA美術館呉児童作品展の応募（習字や絵）があります。今年も、たくさんの児童が応募してくれました。この作品展では、応募した個人の作品だけでなく学校に対して贈られる「団体賞」もありました。これまで応募する作品数が基準となっていたそうで、仁方小学校が選ばれることはありませんでした。しかし、今年度から、応募作品数だけでなく、「この作品展開催の願いを踏まえ、美による教育活動を家庭や地域と連携して計画的・継続的に実践する学校に贈るもの」とすると実行委員会の方からお聞きしました。お聞きしたとき、すぐに頭に浮かんだのが仁方小学校で取り組んでいる「ハッピーフラワー」の取組でした。今年で１１年目を迎える取組です。まさに、子どもたちが主体となって行う活動にボランティアの保護者や地域の方が協力し、仁方小学校を彩ってくださっています。

実行委員会の方が、受賞のお知らせに学校へ来られた際、ハッピーフラワーの活動が素晴らしく、まさに、この作品展の願いにかなっている活動であるということや、他の学校へも広がってほしいという思いを話されていました。これも、支えてくださるたくさんの皆様のおかげです。ありがとうございます。学校に来られた際には、どうぞ皆様も、ハッピーフラワー委員会が心を込めて生けたお花で癒されてください。



お知らせ

学校主事として勤務しておりました西本　守が、自己都合のため9月30日をもって退職しました。10月1日からは山川　豊が学校主事として勤務します。会計年度任用職員のため、週4日（月～木）の勤務となります。

青い目の人形シリーズ　５

ルーズ・ナオミと板垣先生

学校に保管されている資料の中に、昭和６３年５月１２日（木）の朝日新聞のコピーがあり、前回お知らせした板垣先生の記事が残っていました。画像が荒く見にくいものですが、読んでみると驚きの事実が書かれていました。新聞の記事をそのまま紹介します。

仁方小学校の旧校舎たてなおしのため３６年春、旧校舎の倉庫を全職員で整理していた時、板垣さんは赤茶けた古い新聞紙の包みを見つけた。木の箱にアメリカ人形が入っていた。「そんな汚い人形は捨ててしまったら」と同僚の先生たちが言ったが、板垣さんには海外の人形に特別の思いがあった。

「父が海軍にいて、私の幼いころ青い目の人形をプレゼントしてくれたことがあるんです。青い目の人形の歌が流行した時ですね。その人形は戦災で焼けてしまいました。そんな思い出がこみ上げて懐かしかったんです。」職員室に持って帰り、机の上に気の箱と人形を置いて再び倉庫の整理に戻った。丸い皮のトランクに入った白いブラウスや靴、帽子、パスポートなどもあったが、アメリカから来た大切な人形とは知らず、人形以外はすべて焼いてしまった。「今から考えると本当に惜しいことをしました」と感慨深げだ。

それから約１０年間、人形は自分の家で保管したが、養護教諭になった４６年、学校へもっていき、子どもたちに抱かせたりした。ひなまつりやこどもの日などの行事には必ず人形を参列させた。

アメリカから贈られた大切な人形と知ったのは、４７年ごろ。養護教諭仲間の校長先生から「その人形はもしかして昭和２年にアメリカから贈られたものでは」と言われたのがきっかけだった。地元の新聞で紹介され、国際親善人形協会が確認した。

５３年に板垣さんは「この人形を子どもたちのため役立てて」と仁方小学校に寄贈し、代わりのアメリカ人形をルーズ・ナオミ２世と名付け大切にしている。

なぜ人形が倉庫に眠っていたのだろうか。板垣さんは「戦争中にだれかが敵国の人形ということで捨てられると思い、倉庫にしまったのではないでしょうか」とみている。

出典：朝日新聞（広島）昭和６３年５月１２日記事

この記事が掲載された昭和６３年には、青い目の人形32体と、そのお礼に日本から送った日本人形（答礼人形）１９体を展示する「お帰りなさい答礼人形－青い目の人形交流展」が広島そごうで開かれ、仁方小学校のルーズ・ナオミも展示されたそうです。

昭和１９年頃、軍の命令で「アメリカ人形は焼くか、壊すかせよ」と言われ、ほとんどの学校が処分したと言われています。そんな「青い目の人形」が仁方小学校に残され、板垣先生の手を経て、また、仁方小学校に戻ってきたことはなんと素晴らしい奇跡でしょうか。

仁方小学校にあるもう１体の「青い目の人形」スーザンは、平成９年に仁方小学校にやってきました。パスポートや着替えの入ったバックを持っています。「ルーズ・ナオミ」にも同じようにパスポートや着替えがあったことが分かり、嬉しくなると同時に、実際目にすることができないことを残念にも思います。新聞記事から分かる事実をもとに、どんな形だったのだろう、どんな色だったのだろうと想像すると楽しくなります。

今、校長室にいるスーザンと以前の写真のスーザンは、ジャケットは同じですが、違う服を着ています。見比べてみてください。



写真の中のスーザンです。



今、校長室にいるスーザンです。